

いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議

11月25日に、大岡山小学校と第八中学校の代表者が集まり「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」を行いました。当日は、全体会でDVDを視聴し、四つの視点「被害者の気持ち」「加害者の気持ち」「周囲の気持ち」「なぜいじめが起こってしまったのか」から、いじめについて考えていきました。

その後、分科会に分かれて意見交換をし、今後の学校生活での課題や目標を話し合いました。そして、全体会に戻り各グループでのまとめを発表しました。学活の時間に学級、個人のスローガン（行動宣言）をつくってもらいます。つくことで終わってしまうのではなく、常にスローガンを頭に置き、守れるようにしましょう。

～DVDの内容～ 「STOP!いじめ あなたは大丈夫？ 小学校編」

かおりさんはいつも忘れ物ばかりします。かおりさんの友達は、かおりさんが忘れ物をしないようにと、ノートに次の日の持ち物を書いてあげることにしました。すると、かおりさんは忘れ物をしなくなりました。

しかし、しばらくするとかおりさんはまた忘れ物をするようになりました。かおりさんの友達は、かおりさんのランドセルに次の日の持ち物を書いた紙を貼ることにしました。けれどもかおりさんは忘れ物を繰り返し、ついに友達に「ニブリン」というあだ名をつけられてしまいました。

分科会 第1グループ報告



第1グループでは、被害者の気持ちをまず考えました。「嫌だが、先生に言えない」という意見が多く出ました。加害者では、「自分は善意でやっているのだから悪くない」という逆の意見が出ました。周囲の人は、「助きたいが巻き込まれたくない」という思いをもったようです。

この結果いじめの原因は軽はずみな行為がエスカレートしてしまっただけのため起こることがわかりました。解決策として、アンケートをとっていじめに悩んでいる生徒が話しやすい雰囲気をつくる、いじめの早期に発見することや周りの人が先生に相談するなどが上がりました。

分科会 第2グループ報告

DVDを見て、まず被害者の気持ちを考えました。「助けてほしい」や、「怖くて相談できない」という意見が多かったです。

加害者は、「相手のためにやってあげた」や、「友達だから大丈夫」という、いじめたという気持ちを、あまりもっていないことがわかりました。この軽い気持ちが、いじめにつながったという意見もありました。また、周囲の人の気持ちでは、「かかわりたくない」や、「関係ない」という意見が多く出ました。

このような話し合いから、「もっと相手の気持ちを考えるようにする」や、「簡単に悪口を言わない」などという感想が出ました。



分科会 第3グループ報告

第3グループでは、被害者の気持ちを最初に考えました。「三人にバカにされるのは嫌」、「言い出せない」、「仲間はずれは嫌だった」という意見が大半を占めました。加害者の気持ちは「少し面白く思っている」、「罪の意識は無い」などの感情が入りエスカレートする傾向にあります。周囲の気持ちは「自分がいじめられたくない」、「首を突っ込んでいいのかわからない」、「巻き込まれるのが怖い」など消極的でした。周囲の人が巻き込まれるのを恐れるため、どんどんエスカレートとなったのです。お互いに分かり合うことでいじめは無くなります。



分科会 第4グループ報告

DVDを見た後、グループで被害者の気持ち、加害者の気持ち、周囲の気持ち、なぜいじめは起こったのかを考え、話し合いました。

小学生と中学生の意見は同じような内容が多く、被害者は、「誰かに助けてほしい」、「こわい」、加害者は、「友達のためにやっているから自分は悪くない」周囲の人は、「自分に被害がなければいい」、「自分も巻き込まれたくない」といったものでした。

そして、いじめの起った原因は、「手助けをしているつもりが、エスカレートしてしまった」、「誰も相談をしなかった」という意見が多く出ました。この話し合いから「いじめがエスカレートする前に注意し、いじめが起こりそうになったらすぐに先生に相談をしたい」という感想がでました。



分科会 第5グループ報告



第5グループでは、まず被害者の気持ちを考えました。「とても辛い」、「怖い」などの意見が多数あがりました。それに対し加害者の立場では、「からかいたい」、「楽しい」という全く逆の考えであるという考えにまとまりました。周囲の人も、「気にはなるが巻き込まれたくない」という意見が大部分を占め、いじめの原因は周囲の行き過ぎた行動であると考えました。

これらのことから以下のような解決策を考えました。それは、相手の気持ちを考え、自分の行動を改めるということです。周囲の人もただ見ているのではなく、勇気を出していじめを止めることもいじめをなくす方法の一つではないのでしょうか。皆さんも、「いじめ」について改めて考えてみてください。

いじめ問題を考える めぐろ子ども会議を終えて

代表として今後行っていくこと

【生徒会】

- ・いじめゼロを目指して、クラスや学年で話し合う機会を設ける。
- ・会議で話し合ったことをクラスメイトなどに呼び掛ける。
- ・八中 times に「困っていることはありませんか？」というような内容でアンケートを実施する。

【第一学年委員】

- ・いじめが無くなるように気配りをする。
- ・自分から声をかける。
- ・いじめを止められるような雰囲気を作る。
- ・いじめ会議で話したことを伝える。

【第二学年委員会】

- ・いじめが起きないように目配りをする。
- ・周りでいじめが起きていないか、悩んでいる人はいないか把握する。
- ・今回学んだことを呼び掛けていく。

最後に…

会議を通して、

- ・いじめは被害者や加害者だけの問題ではなく、周りの人も大きく関わっているのだと改めて感じた。
- ・自分の意見以外にも他の意見を聞くことができ、いろいろな考えを知ることができた。
- ・いじめについてより深く考えさせられる会議だった。
- ・いじめを解決することの難しさがわかった。
- ・いじめは早期発見が大事だと学んだ。

などの意見があがりました。

いじめは、加害者は気づかなくても被害者は傷ついています。その傷ついた心は一生消えません。周囲の人も見て見ぬふりをするのではなく、勇気を出して身近な人に相談できるといじめはなくなっていくと思います。また、「こうしたい」ということを考えるだけでは意味がありません。行動に移す必要があります。勇気をもって行動に移し、いじめをなくしましょう。

代表だけがいじめを無くそうとしても意味がありません。一人ひとりが「いじめはダメ」という意識をもつことが重要です。皆さん一人一人が考えてください。

今回の「いじめ問題を考える めぐろ子ども会議」を通して、私たちは人を傷つけるのではなく、相手の立場に立って、人にやさしくできる学校づくりをしていきたいと思っています。

今後の取り組み

- 1、 11月30日(月)…生徒会朝礼で生徒会長より、会議の報告。
1校時の学活で各クラスの学級委員が会議の報告、学級討議後、学級や個人スローガン（行動宣言）づくりを行う。
生徒会朝礼でのスローガン発表者を決める。
- 2、 12月14日(月)…生徒会朝礼でスローガン（行動宣言）発表。
職員室前に学級スローガンを掲示する。